

# 須玉の食べ物歳時記

The Seasonal Fests and Foods of Sutama

おヤマのカミさん、お田のカミさん、おカンノンさん、ギオンさんまでは聞いて何と分かります。けれどニッチョさん、オコヤスさん、アキヤさん、といった呼び名が、角のお菓子屋さんの屋号のように若い人も交えた日常会話にボンボンでくると、もうとても神々のことは思えません。まだまだほかにも、須玉町は新旧のカミさん方が沢山いられる町なのです。

それはブナ帯の自然に宿る森羅万象のカミさんからはじまり、農耕、集落、辻、馬、蚕、災難除け、商売繁盛のカミさんへと時代とともに新しいカミさんが次々に住みつかれたためでしょう。

ちいさな石の祠(わ)に新しいしめ縄、お神酒やお団子が供えられているのにいき当たりますが、だれかがこのカミさんをいとおしんで身繕いをお手伝いしているのでしょう。

須玉町のこのような濃(ア)やかな習俗は、自然によりそってくらす他の地域とも共通しているように想われます。季節感、食べ物、神々、祭などについて外国の場合についても拾ってみました。どれも負けずおとらずユニークでユーモラスな神々との関わりがみられます。

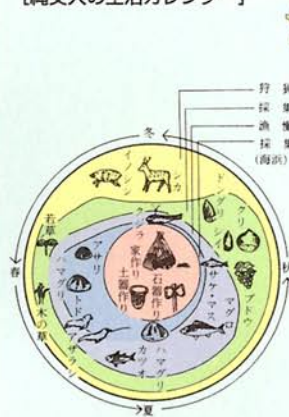
[シンボルピクト・ガイド]



## ■世界のブナ帯文化と日本 Deciduous Forest Cultures of the World

日本列島の自然は2つに分かれ、東日本はブナ・ナラなどの落葉広葉樹林(通称ブナ林)、西日本はシイ・カシ・ツバキの照葉樹林でおおわれています。地球全体では世界のブナ林帯は大きく3つあり、東日本を含む東アジア、西アジアからヨーロッパ、そして北アメリカ北部となります。この自然の中に生きてきた人たちは、みんな一緒にクリ・クルミなどの木の果やキノコをひろい、クマやカモシカを追い、川に遊行するサケや海の貝・海草・魚を獲り、ゆたかな時間をすごしながら、石器、縄文土器をつくり、オシャレをし、語り、歌い、踊り、信仰する……完成度の高い文化を創りあげてきました。このようなブナ帯文化として東日本のアイヌ、ヨーロッパのケルト、そして北アメリカのインディアンなどの固有な文化があります。これらはけっして孤立した過去のものではなく、現代の私たちの暮らしの基層をなす感性・意識とも深くかかわっているのです。

### [縄文人の生活カレンダー]



## 冬 Winter



〈お天神講〉  
Tenjin-ko: Children pray to the god of learning

12  
[師走]

12月22日  
25日

### 須玉の年行事と食べ物 Annual events and seasonal foods of Sutama

冬 至 Winter Solstice  
・冬至かぼちゃ・ゆず湯  
天満天神宮・天神講  
・五目ご飯・カレーなど



【角餅・きび餅・ごぶ餅】  
Square cake, millet cake and seaweed cake

28日又は  
30日  
31日

正月の準備 ・お飾り  
・餅つき=・鏡餅・角餅・キビ餅・ごぶ餅  
大晦日 (オモッセ)  
・白いご飯  
・けんちん汁=秋にとれた野菜をたっぷり入れる  
・イワシ、サケ、マスなどの魚  
・柿と栗は必ず用意する縁起もの  
・年越しそば

### ●春の七草



ござよう  
(ははこぐさ) /  
cudweed



なすな /  
shepherd's purse



はこべら / chickweed



せり / dropwort



1年で夜が一番長い日。  
山梨では日没から日の出が約14時間10分。  
「冬はお天神講だ。子供し(衆)の行事です。昔は子供が、枯れ枝なんかを束にして、それを売って天神講の費用にしたもんです。天満天神宮なんて習字をかいたり、簡単な衣装をつけて振りつけを考えて踊ったりして。親も見にきた。夜の度胸だめしが最高に楽しかった。」

おトシ神さんの棚に飾る松(マダガ)だんは25、28、30のいずれかの日に、山に伐りにいきます。一夜松、一夜餅はよくないので餅つきも28日か30日に行う。9の日は「苦」に通じるので縁起事はしない。大きな鏡餅はトシ神さんへ、そして小さいオソナエは、一族や部落の神の氏神さん、カマドのお荒神(ウツミ)さん、井戸やセキの水の神さん、蔵のカミさん、使所カミさん、などへ供えます。

「オモッセにはミソからとったおつゆで野菜を煮るだね。大根入れたり、イモでも入れたり。オモッセの白い飯について、たくさんたべないと家の役にたつ子にならないといわれたねえ。」

古くから初子(ハツコ)の日に早春の青菜をたべる習わしがあり、一方1月15日に七種(クサ)の粥といって、七種の穀物(コメ、アワ、ヒエ、キビ、アズキ、ゴマ、ミノ)や七種の材料を入れた粥をたべる習慣があった。これがちに7日の七草粥と15日の小豆粥になったとされる。



大小麦 / daikon



すずな(かぶ) / white turnip

### 聞き書きメモランダム Notes and elders' comments

### 世界の年中行事・季節の祭り World annual events and seasonal festivities

#### ◆冬の食材◆ Fruits of the Earth: winter

- 干し大根
- 凍み大根
- 凍み白菜
- 凍み菜
- ヤギ乳
- ウサギ
- イノシシ
- シカ
- つばきタニシ



〈クリスマスの朝食ユールベーク (クリスマスの山) スカンジナビア



>冬の兆し< Signs of winter  
たよりない陽ざし、冷たい木枯らし、烈しい風の音。川の水も冷たくあらう流れ、山の本々の葉も落ちて淋しい。しかしケヤキに積もった雪の見事さ、美しさはたとえようもない。ため息がもれる。  
—須玉町アンケート—

12月22日頃 >冬至=太陽の復活<  
★木々も草も枯れきった野山、降りやまない雪、たよりない陽ざし、そしてぐんぐん早まる夕暮れと日没... 大昔の人々にとってこの光景はどんなに心細いものだったことでしょう。  
冬至の前夜に地球上のあちこちで焚かれる火は、そんな人々の気持ちを反映してそれは盛大なものだったに違いありません。翌日の冬至を転換点として間違いなく太陽が復活し、自然が命をとりもどすよう火を焚いて天と地の神々に祈り、火の力で太陽の再生をたすけようとしたのです。  
そして収穫、貯蔵の作業が終わって人々がほっとするこの季節は食料や酒が一年で一番豊富な時であり、人々は火をかこみ、飲みかつ踊る盛大な時でもありました。★また冬至の太陽の復活は四季のめぐりの再来を意味します。それは一年のはじまりであり、暦のはじまりでもあります。冬至は暦のはじめの日「元日」を決めるための重要な日でもありました。



〈クリスマスの変わりの飾り〉 スカンジナビア

>冬至の祭り<  
★日本列島の古い住人たちは冬至を年のはじめとした、といわれ当時の祭りの心は



1月1日 正月 お神酒・お屠蘇・雑煮・おせち料理

7日 七種粥(ナナガシ) 松送り

11日 お田植え節句・鏡餅をお粥、  
しるこ、  
鏡開き 雑煮にまぜる

14日 道祖神祭り  
・オマコ玉  
・赤飯・煮物など  
黒森のオヤナギ (増富)  
神戸(カ)の獅子舞 (増富)  
御門(カ)の獅子舞 (増富)  
中小倉(カ)の獅子舞 (多麻)  
二日市場の六角石幢の祭り  
・市場の神様 (若神子)  
田屋の十四日出入り (穂足)

15日 小正月=昔は冬至の後の最初の満月

中下旬 秋葉講(アキハコ)  
・お神酒・団子・お頭つきの魚  
火伏せの神様

お総日待ち・オヒマチ  
・オセイ・けんちゃん汁・とろろ汁  
・オトメ盛りご飯

17日 お山の神様の祭り  
冠(カ)オトシ  
・団子・赤飯  
・小豆粥

18日 道祖神、山の神、氏神の祠に  
ノボリを立てる

19日 丹生沢(カ)神社の高粥と甘酒講(増富)  
・キビとアワの粥・甘酒

23日 綱打ち(カ)節句  
・粉ぼうとう=小豆ぼうとう

2月3日 節分  
4日 立春 ・麦ご飯・イワシ・煎った大豆



【凍み大根の煮物】  
Freeze dried radish cooked  
with other vegetables



【凍み大根】  
Freeze dried radish



【正月の供え物】  
New Year's offering



【秋葉講】  
Akiya-ko: Amulet against fire



【小豆粥】  
Red-bean porridge



【ころ柿の天ぷら】  
Dried persimmon tempura

若水を汲んでトシ神さんへ上げます。  
「お正月には、着物や下駄を新しくあつらえてもらってうれしくてね、だげど遊び歩いてしゃばいちゃあ(やぶいでは)怒られたな。」

「松送り」の松を田植えをするように田にさし、鏡餅のかけらを松のまわりに蒔いて、お酒を供えて田の神さんをお参り、豊作を祈ります。

モチ花、オマコ玉などと呼ばれますが、コメ、ソバ、トウモロコシの粉などで作物の形をつつくて梅やコナシの木にさしたものを飾ります。まず神棚へ上げてから道祖神に供え、前の人々が上げた別のマコ玉をもち帰ります。ドンドン火で焼いてたべると虫歯にならないといひます。

「道祖神ってのがまたおもしろい。十四日祭礼(セリイ)といひましてね、ここでは「オヤナギ」を飾るんです。おわけし(若い栗)っていうのがあってね、この日、笛を吹いたり、太鼓をたたいたり、歌ったり踊ったりするんですが、一軒一軒回り歩いてね、お神楽ではなくて。それで夜になるとさ、みんな集まってるいろいろな話をしたりする。昔は15歳になった1月15日が大人の仲間入りの日でお酒もはじめて飲みました。」

・酒は秤うりて、5合(900cc)位ずつ買った。飲むのはもっぱらオヒマチの機会が利用された。ハナ(花札)や(カ)などの賭け事もオヒマチの後にやられるのが常であったという。 —上津金の民俗—

火伏せの神、静岡・秋葉神社本社に今年の代表がまいりして、いただいてきた火除けのお札を講のメンバーに手渡すためのついで。お札は家の台所や風呂の炊き口にはり、火伏せをいのります。

昔は21日。お山の神さんの重要な祭日。「山の神様っていうって、みんな弓矢をつくって供えるんです。これは一つの魔よけですが、どの山にも神様があるんです。この近くでは、奥にご本尊さんの天狗の神様がいます。その日は山仕事しちゃういけなく、神様が弓を放つからだっていわれてね。山に入ると足を切られるっていうけど、実際ケガしたって聞いたことがある。」

19日の夜から20日にかけてアシの茎に入ったキビやアワのお粥の量で作物の豊凶を占う神事。翌日20日は甘酒をふるまう甘酒講が行われます。

・場所によっては20日のツナブチ(綱打ち)の時、新しく縄をない、それをもって夕方、山の神社にいったシメ縄を新しくする。お神酒を供えて参拝し、一杯のんで祝った。

「太いナワは近所で寄って3人でなった。昔は何でも手づくりしたもんだ。金敷きだって父がつくったよ。ワラヅクリは冬に100連もつくって天井のハリにするしておいけたけど、1年で使いきっちゃった。土間のクド(カマド)もこわれると父がつくり替えた。」

ヒノキやヒイラギをとってきて大豆を煎りながら枝がバリバリと音のするようにホウロクの上で大豆をかきまわす。その枝に焼いたイワシの頭をさし、鬼が家の中に入ることないように玄関の外に枝のまましておく。子供の頃は、玄関のイワシも鬼の首のようにみえて、こわかった。一須玉町アンケートー

「昔は針供養っていえば、おじょうもん(娘)の所へお若えし(栗)が乗りこんでさ、盛大にやったもんじゃ



【Bûche de Noël ビュッシュ・ドゥ・ノエル】  
フランス



【聖ニコラスに従う全身ワラで身を包んだブットマンドル】南ドイツ・ベルヒテスガーデン



【聖ニコラス祭ニコラスビーレン】オーストリア ミッテンドルフ



【春を告げるカセ鳥】山形



【厳しい冬の恐怖を擬人化した仮面ロスケゲテ】スイス・ヴァリス州

の新嘗祭、幸せをさる来訪神を迎える大節講、新年前夜のオケラ火などです。  
★中国では米の粉に色をつけ、たくさんの動物の形をつくって祖先をまつり、馬、牛、羊、犬、豚がよく育つように祈ります。  
★ヨーロッパでも大きな火が焚かれます。北欧では「ユールの火」といって積みあげたオーク(ナラの木)の薪・ユールブロックを盛大に燃やします。  
★冬が雨期にあたるヨーロッパでは雷神も冬に登場し、間違ひなく天の火が地上にくだり春がはじまるよう雷鳴をとどろかせ、電光をはしらせませす。  
★ユールブロックは落雷よけのお守り、そして灰は畑にまき、飼料にまぜて家畜に食べさせると、作物はゆたかにみのり、家畜は丈夫な子を産むといわれています。  
★キリストの生誕地は西アジアのパレスチナですが、生誕の時期は判らず、クリスマスは12月25日と最初に決めたのは、4世紀はじめ、ローマにおいてです。  
★クリスマスはイエスの生誕を太陽の再生に重ね、北欧のユールと、古代ローマの農耕神の冬至の祭りに重ねて祭りが定められました。クリスマスの祝い方の中に、各地の冬至にまつわる古い習俗を反映したものが散見されるのもそのためです。  
★北欧ではこの日「ユールのヤギ」を飾ります。麦ワラでヤギをつくり、新しい年の豊作を祈った名残です。古代からヤギは豊穡のシンボルとして女神にささげられ、また、穀物豊も宿るとされてきました。  
★秋に穫れたばかりの小麦でつくる「ユールのパン」はヤギ、豚、ウサギなどの形に焼かれますが、特別な薬効があるとして春先まで大事に保存され、春の農耕をはじめに豊穡をねがって畑に蒔かれます。  
★フランスのクリスマスケーキ「ガレット・ドゥ・ノエル」はユールブロックの縁起にあやかってつくられる、新のかたちのケーキです。  
★モミは冬にも枯れることなく生き生きとした緑であるため、古くから永遠の命のシンボルとされていたものです。いまではクリスマス・ツリーとして使われています。



【あまめはぎの仮面】石川

>祭の前夜には…<

★ヨーロッパでは夏と冬で神々が入れ替わります。  
★ヨーロッパでは古くから、季節の変わり目の祭りの前夜に、それまでの季節を司った神々や祖霊が退場をいやがり、人里に群れをなして現れ、時には人々に災いをもたらすと信じられていました。  
★祭りの日、どこからともなく仮面姿の大きな角をはやした神々、太鼓を打ち鳴らす死神、ガーガー鳴くオンドリ、首の長いヤギを引きつれた魔女、緑のコケ男、野生の大男、大カラス、熊、などなどが現れ、家々を訪ねては騒々しい音をたててうたい、踊りながら、たいまつを手練りあるきます。  
★これら魔女、妖怪、妖精、異形のもの、動物たちは豊穡をねがひ祖霊をうやまう古いヨーロッパの人々にとって身近な神々、八百万の神々の姿でもあるのです。



【ビシュヌ神の仮面】スリランカ

1  
【睦月】



【中小倉の獅子舞】  
Lion dance dedicated to a god  
(Nakagogo)



【おせい】  
Osei, a hodgepodge

2  
【如月】



## Sutama Fest and Food Almanac

Life shared with approximately fifty gods -- this Sutama Fest and Food Almanac is the record of field work conducted in the town of Sutama in Kitakoma county of Yamanashi prefecture.

Yamanashi prefecture, located roughly in the middle of Honshu (main) Island, is the keystone of traffic across the Island with Mt. Fuji marking the southern border and bounded by the capital region of Tokyo to the east. Topographically, Yamanashi is a huge basin with a comfortable climate. Characterized by vineyards and peach orchards, moderately sloped mountains stretch on the northern side of Fuji and surround the basin. The prehistoric remains unearthed throughout the prefecture, some traced as far back as the Palaeolithic and jomon ages, suggest that the nature of the region has since ancient times provided a rich and comfortable living environment to the gods, animals and, of course, people. This topographical condition, a basin surrounded by mountains, is no doubt a major factor that has protected the region's nature and traditional life from deterioration.

Sutama is a town that lies in the north-western part of the basin with an area of 174.26km<sup>2</sup> and a population of 7,462 (1996). From mountainous areas with rich deciduous forests of white birch, beech, marronnier and maple to lodging spots along an old main road, ranging between 2,230 m and 450 m above sea level, the town consists of six settlements each proud of its own life style and a refined atmosphere set against a different natural background.

This Almanac, consisting of the two chapters of "The Land and its People" and "Seasonal Fests and Foods of Sutama", has been compiled based on interviews and enquiries conducted with inhabitants aged between 50 and 90 years.

1) Sutama: The Land and its People provides six maps representing the six settlements. The maps record the history inscribed in the land as testified by archives and the people interviewed. Focusing on such themes as festivals and foods, plays, horses, fox fires (mysterious fires attributed to foxes) and canals, the chapter covers the whole spectrum of life in Sutama, from mountain life where people live with the gods and enjoy religious rites to life in the lodging areas where people, materials and information busily intersect.

### 2) The Seasonal Fests and Foods of Sutama

Devoting the left half of the page to Sutama and the rest mainly to the deciduous forest zones of Europe, this chapter provides a comparative view on the communication existing between people and gods through studying seasonal festivities and foods. Such subjects as the deciduous forest cultures of the world, varieties of calendars and New Year's Days, world fruit and fireside memories are discussed in detail in separate boxes.

"World Annual Events in Comparison", for one, provides a perspective of a variety of New Years' Days and annual events celebrated according to different calendars by rearranging them along the universal time axis based on astronomy; an attempt to consider the origins of these festivities and whatever the geographically distant events may share in common.

It will be our great pleasure if this tiny brochure serves as a catalyst for a better understanding of the town of Sutama thereby making a modest contribution to the enhancement of communication between different cultures.

Sutama Board of Education  
Kitakoma County, Yamanashi Prefecture

Published by  
Sutama Board of Education  
〒408-01 2155 Wakamiko Sutama-town  
Kitakoma County, Yamanashi Pref.  
Phone 0551-42-2111

Planned, researched & edited by  
Shoku Kenkyu Kobo Work shop  
〒158 2-12-6 Tamagawadenenchofu  
Setagaya Ward, Tokyo  
Phone 03-3722-1727

Designed by  
KCC Art Produce Office  
〒400 1-3-19 Aonuma Kofu-City,  
Yamanashi Pref.  
Phone 0552-32-7603

## フィールドワーク〈須玉の食こよみ〉

これは約50の神々と共にくらしている山梨県 北巨摩郡 須玉町の生活記録です。

山梨県は本州のほぼ中央、富士をはじめ山々に周囲をかこまれ、山麓のなだらかな丘陵地にはブドウやモモの果樹園がゆたかに広がる気持ちのいい土地です。

旧石器・縄文以降各時代の遺跡が県内各地にあり、昔から神々も生き物もそして人々にとっても棲みやすい豊かな自然環境だったことをうかがわせますし、峠をこえて沢山の人々が行き来する交流の地でもありました。

近世以降、甲斐の国・山梨は地図の上では大阪と江戸東京という二大都市の間に挟まれる形になりますが、二つをつなぐ幹線交通路＝東海道と中山道は県内を通過せず、南北はるか外側を迂回しているため不必要な通過交通や環境破壊をうけることなく、県内には古くからの自然と生活文化が豊かにのこされています。そして一方、これらの幹線交通をむすんで太平洋から日本海へ、日本列島を南北にぬける交通にとっては重要な地点となっています。

北巨摩郡は甲府盆地の北西部にあって気候も爽やかで、南アルプスから八ヶ岳、秩父山地、茅が岳と季節ごとに彩りをかえる峰々にかこまれ近年は国際交流もさかんになっています。そして須玉町には白樺・ブナ・トチ・モミジなど広葉落葉樹の豊かな海拔2230mの山々から、海拔500mの古い街道筋の宿場町まで、異なった自然を背景に固有の生活文化と美しいたずまいをもった六つの集落が点在しています。

この〈食こよみ〉は50才～90才の町民へのアンケートと聞きとり資料を“マップ編”と“歳時記編”として紙面の一面ずつにまとめたものです。

### 1) “風土と暮らしマップ”

＝各集落ごとに土地の記憶を、村誌の記述や住民のこぼれ話をできるだけ生かして地図に記録したもの。

山から里へ、自然の神々と共棲し祭りを楽しむ山の人たちの生活から、人・物・情報が忙しく行き交う宿場町の生活まで、祭りと食・遊び・馬・狐火・堰などをテーマにまとめています。

### 2) “祭りと食べもの歳時記”

＝神々との関わりを四季の祭りと食べものを通してまとめたもの。

紙面の左半分は須玉の、右半分は主にヨーロッパ・ブナ帯の祭こよみとなっており中でも須玉の生活と関わりが深い5つのテーマ〈ブナ帯文化〉〈暦のしくみ〉〈新年行事〉〈果物〉〈イロリ〉については独立したコーナーを設け世界的視野にたって図解をしています。

たとえば〈世界の暦のしくみ〉は、世界各地でちがう暦にもとづく新年や祭りを、太陽（冬至・春分・夏至・秋分）、月（新月・満月）そして地球（日没・日の出）のめぐりにそって位置づけ直し、祭りの始まった意味や、異国の祭りとの共通性を探っていくという試みです。

〈食こよみ〉の編集はDTP（コンピューター編集）でまとめましたが、一見異質に見える伝統文化とコンピューターの出会いによって、町の伝統をもう一度町民みんなで、そして町外の方々とも共有できる兆しが見えてきたことを実感しております。

〈こよみ〉は広場……この〈食こよみ〉が須玉町を理解していただく糸口となり、また世代・地域・国境をこえた異文化間の会話の場となることを心から希っております。

〈食こよみ〉についてのご意見やご感想を是非おきかせくださいますよう、お願いいたします。

### 須玉町教育委員会

〒408-01 山梨県北巨摩郡須玉町若神子2155

☎ 0551-42-2111（大代表）

☎ 0551-46-2125（須玉町歴史資料館）